

令和5年度 企業局の決算見込みの概要について

1 上水道事業

- ・収益的収支は、給水収益が、企業向けの使用水量の増に伴い増加したことに加え、電気料金の減に伴い動力費が減少したことなどにより、**純利益は58億円**（前年度比19億円増、49.7%増）となりました。
- ・資本的収支は、建設事業費がちば野菊の里浄水場（第2期）の工事費の減などにより減少した一方、資金の状況等を踏まえ、企業債発行額を前年度から大幅に増額しました。
- ・この結果、資金残高は**449億円**（前年度比55億円増、13.7%増）となりました。
- ・今後は、水道施設の更新工事等に伴う減価償却費や企業債償還費の増加等により、**経営状況が大変厳しくなると見込まれます。**
このため、施設の老朽度や水需要予測の調査を踏まえ、令和7年度中に策定する次期中期経営計画において、**事業の精査や、水道料金の在り方**についても検討するなど、引き続き健全経営に努めてまいります。

2 工業用水道事業

- ・収益的収支は、給水収益が料金改定により増加したことに加え、電気料金の減に伴い動力費が減少したことなどにより、**純利益は11億円**（前年度比7億円増、156.7%増）となりました。
- ・資本的収支は、工事負担金の減などで収入が減少した一方、建設事業費は施設更新・耐震化事業の増などにより増加しました。
- ・この結果、資金残高は**384億円**（前年度比25億円増、7.0%増）となりました。
- ・急務となっている施設の老朽化対策や地震対策を、「施設更新・耐震化長期計画」や「中期経営計画」に沿って計画的に進めていけるよう、健全経営に努めてまいります。

3 造成土地管理事業

- ・収入の大半を占める土地分譲収益については、千葉北部関連地区及び検見川地区での分譲等により、
 - ・**純利益は82億円**（前年度比39億円増、89.1%増）
 - ・**資金残高は1,074億円**（前年度比95億円増、9.7%増）となりました。
- ・未処分土地は、前年度に比べ、19ヘクタール減少し、令和5年度末では149ヘクタールになりました。
今後も、「経営計画」に沿って保有する**土地の処分を進め、地域経済の発展への貢献**に努めてまいります。

1 上水道事業会計

(1) 決算見込み額

ア 収益的収支決算見込み額

(税込み・単位:百万円、%)

区 分		R5年度 a	R4年度 b	増減 c=a-b	増減率 c/b
収 入	給水収益	64,844	64,490	354	0.5
	給水申込納付金	4,290	4,074	216	5.3
	長期前受金戻入	7,432	7,501	△ 69	△0.9
	その他	6,750	6,506	244	3.8
	計 A	83,316	82,571	745	0.9
支 出	人件費	6,194	6,011	183	3.0
	動力費	3,786	4,748	△ 962	△20.3
	修繕費	7,056	7,089	△ 33	△0.5
	薬品費	3,478	2,828	650	23.0
	委託料	9,928	10,743	△ 815	△7.6
	減価償却費	28,269	28,320	△ 51	△0.2
	支払利息	1,735	1,886	△ 151	△8.0
	その他	13,373	13,256	117	0.9
計 B	73,819	74,881	△ 1,062	△1.4	
収支差 C=A-B		9,497	7,690	1,807	23.5
純利益(消費税調整後)		5,828	3,894	1,934	49.7

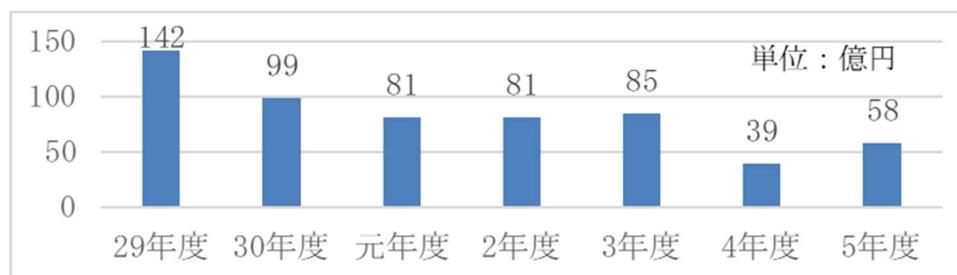
(ア) 収益的収入：前年度に比べ7億円増の833億円

- ・給水収益は、家庭用向け（小口径）の使用水量は減ったものの、企業向け（大口径）の使用水量が増えたことなどにより3億54百万円増加

(イ) 収益的支出：前年度に比べ11億円減の738億円

- ・動力費は、電気料金単価の減などにより9億62百万円減少
- ・薬品費は、活性炭等の単価及び使用量の増などにより6億50百万円増加
- ・委託料は、料金システム関連業務委託の減などにより8億15百万円減少
- ・支払利息は、金利の高い企業債の償還が終了し、金利の低い企業債へ移行していることなどにより1億51百万円減少

(ウ) この結果、純利益（消費税調整後）は前年度に比べ19億円増の58億円となりました。



イ 資本的収支決算見込み額

(税込み・単位:百万円、%)

区 分		R5年度 a	R4年度 b	増減 c=a-b	増減率 c/b
収入	企業債	31,000	13,000	18,000	138.5
	その他	3,037	2,508	529	21.1
	計 A	34,037	15,508	18,529	119.5
支出	建設事業費	43,183	44,427	△ 1,244	△2.8
	企業債償還金	13,037	12,406	631	5.1
	その他	271	280	△ 9	△3.2
	計 B	56,491	57,113	△ 622	△1.1
収支差 C=A-B		△ 22,454	△ 41,605	19,151	△46.0

(ア) 資本的収入：前年度に比べ 185 億円増の 340 億円

- ・ 企業債は、資金の状況や建設事業の執行状況を踏まえ 180 億円増加。

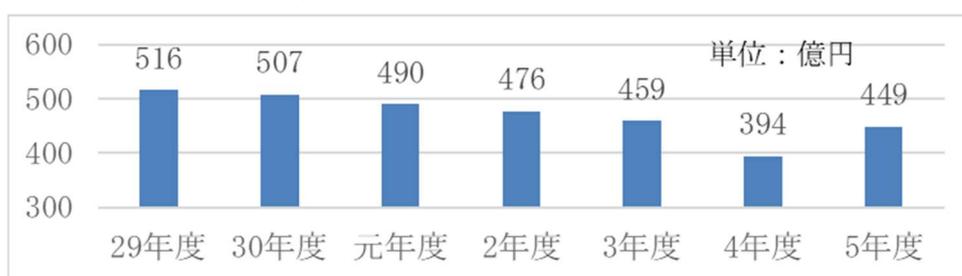
(イ) 資本的支出：前年度に比べ 6 億円減の 565 億円

- ・ 建設事業費は、老朽化した浄・給水場施設や管路の更新・整備に係る工事費は増加した一方、ちば野菊の里浄水場（第 2 期）の整備工事の減などにより、全体では 12 億 44 百万円減少
- ・ 企業債償還金は、近年における発行額の増により 6 億 31 百万円増加

(ウ) この結果、資本的収支が 225 億円不足することから、損益勘定留保資金等で補てんします。

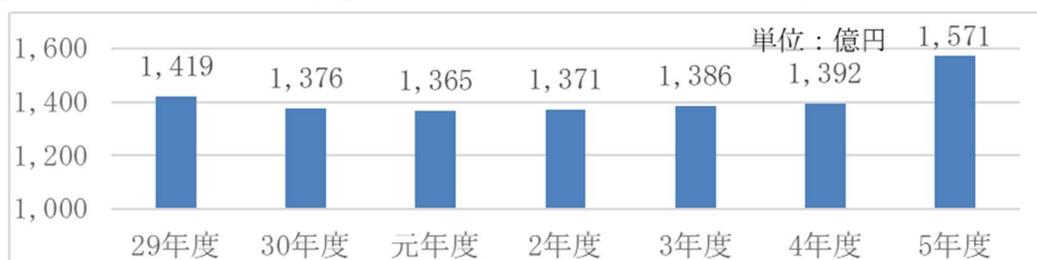
(2) 資金残高

資金残高は、55 億円増加し、449 億円となりました。



(3) 企業債残高

企業債残高は、179 億円増加し、1,571 億円となりました。



2 工業用水道事業会計

(1) 決算見込み額

ア 収益的収支決算見込み額

(税込み・単位:百万円、%)

区 分		R5年度 a	R4年度 b	増減 c=a-b	増減率 c/b
収入	給水収益等	12,537	12,135	402	3.3
	長期前受金戻入	1,348	1,455	△ 107	△7.4
	その他営業外収益	157	197	△ 40	△20.3
	その他	14	5	9	180.0
	計 A	14,056	13,792	264	1.9
支出	人件費	1,011	935	76	8.1
	動力費	1,022	1,446	△ 424	△29.3
	減価償却費等	5,911	6,144	△ 233	△3.8
	委託料	2,008	1,907	101	5.3
	修繕費	537	655	△ 118	△18.0
	その他	1,937	1,862	75	4.0
	計 B	12,426	12,949	△ 523	△4.0
収支差 C=A-B		1,630	843	787	93.4
純利益(消費税調整後)		1,119	436	683	156.7

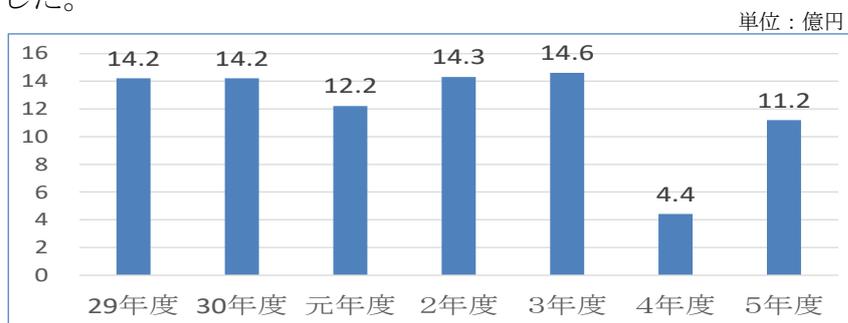
(ア) 収益的収入：前年度に比べ3億円増の141億円

- ・給水収益等は、料金改定による増により4億2百万円増加

(イ) 収益的支出：前年度に比べ5億円減の124億円

- ・動力費は、電気料金単価の減などにより4億24百万円減少
- ・修繕費は、水管橋緊急修繕の減などにより1億18百万円減少

(ウ) この結果、純利益（消費税調整後）は前年度に比べ7億円増の11億円となりました。



イ 資本的収支決算見込み額

(税込み・単位:百万円、%)

区 分		R5年度 a	R4年度 b	増減 c=a-b	増減率 c/b
収入	企業債	123	69	54	78.3
	出資金	3,000	3,000	0	0.0
	国庫補助金	188	267	△ 79	△29.6
	工事負担金等	80	184	△ 104	△56.5
	計 A	3,391	3,520	△ 129	△3.7
支出	建設事業費	5,078	4,629	449	9.7
	企業債償還金	1,913	1,985	△ 72	△3.6
	他会計借入金返還金	1,000	850	150	17.6
	その他	396	261	135	51.7
	計 B	8,387	7,725	662	8.6
収支差 C=A-B		△ 4,996	△ 4,205	△ 791	△18.8

(ア) 資本的収入：前年度に比べ1億円減の34億円

- ・企業債は、建設事業費の増により54百万円増加
- ・工事負担金等は、対象工事等の減により1億4百万円減少

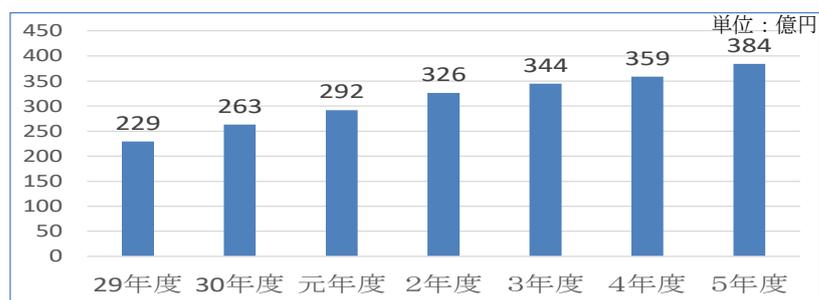
(イ) 資本的支出：前年度に比べ7億円増の84億円

- ・建設事業費は、施設更新・耐震化事業の増などにより4億49百万円増加

(ウ) この結果、資本的収支が50億円不足することから、損益勘定留保資金等で補てんします。

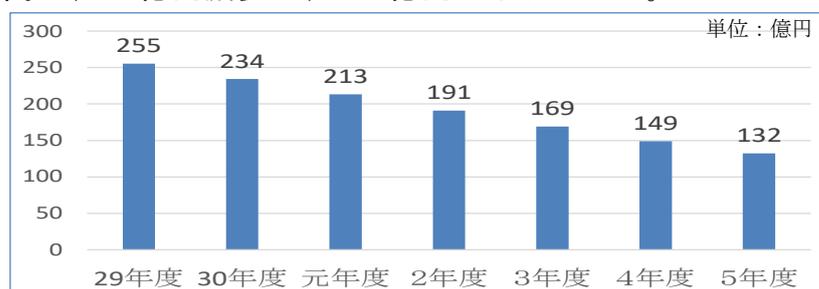
(2) 資金残高

資金残高は、25億円増加し、384億円となりました。



(3) 企業債残高

企業債残高は、17億円減少し、132億円となりました。



3 造成土地管理事業会計

(1) 決算見込み額

ア 収益的収支決算見込み額

(税込み・単位:百万円、%)

区 分		R5年度 a	R4年度 b	増減 c=a-b	増減率 c/b
収 入	土地分譲収益	11,390	8,879	2,511	28.3
	土地貸付収益	2,389	2,393	△ 4	△0.2
	その他	2,028	2,161	△ 133	△6.2
	計 A	15,807	13,433	2,374	17.7
支 出	土地分譲原価	4,150	2,625	1,525	58.1
	人件費	994	1,024	△ 30	△2.9
	修繕費等	342	536	△ 194	△36.2
	負担金	876	2,556	△ 1,680	△65.7
	資産減耗費	178	61	117	191.8
	その他	1,045	2,284	△ 1,239	△54.2
	計 B	7,585	9,086	△ 1,501	△16.5
収支差 C=A-B		8,222	4,347	3,875	89.1
純利益(消費税調整後)		8,222	4,349	3,873	89.1

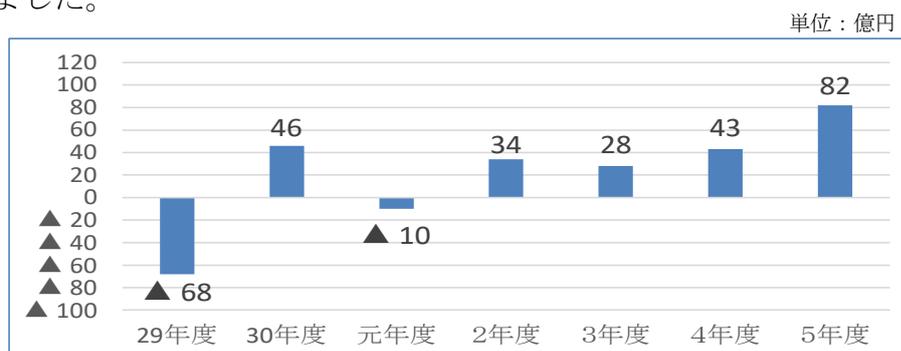
(ア) 収益的収入：前年度に比べ 24 億円増の 158 億円

- ・ 土地分譲収益は、大口の分譲があったことにより 25 億 11 百万円増加

(イ) 収益的支出：前年度に比べ 15 億円減の 76 億円

- ・ 土地分譲原価は、15 億 25 百万円増加
- ・ 修繕費等は、豊砂地区下水道管引継補修工事の減少などにより 1 億 94 百万円減少
- ・ 負担金は、幕張新都心拡大地区新駅設置負担金の減などにより 16 億 80 百万円減少

(ウ) この結果、純利益（消費税調整後）は前年度に比べ 39 億円増の 82 億円となりました。



イ 資本的収支決算見込み額

(税込み・単位:百万円、%)

区 分		R5年度 a	R4年度 b	増減 c=a-b	増減率 c/b
収 入	貸付金返還金	1,258	955	303	31.7
	その他	0	17	△ 17	△100.0
	計 A	1,258	972	286	29.4
支 出	建設改良費	909	1,073	△ 164	△15.3
	出資金	3,000	3,000	0	0.0
	その他	63	7	56	800.0
	計 B	3,972	4,080	△ 108	△2.6
収支差 C=A-B		△ 2,714	△ 3,108	394	12.7

(ア) 資本的収入：前年度に比べ3億円増の13億円

・貸付返還金は、前年度に比べ3億3百万円増の12億58百万円

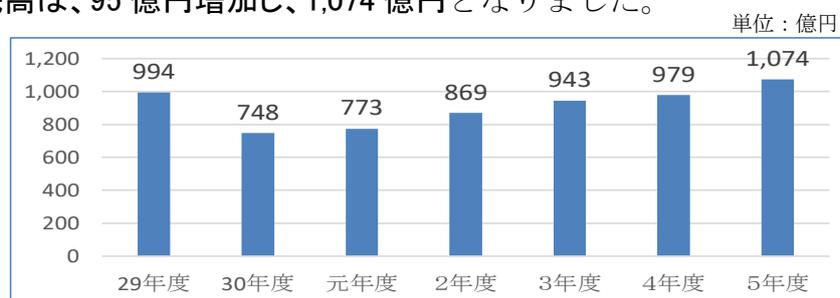
(イ) 資本的支出：前年度に比べ1億円減の40億円

・建設改良費は、公益的施設負担金の減等により1億64百万円減少

(ウ) この結果、資本的収支が27億円不足することから、損益勘定留保資金で補てんします。

(2) 資金残高

資金残高は、95億円増加し、1,074億円となりました。



(3) 未処分土地の状況

令和4年度末に168ヘクタールあった未処分土地は19ヘクタール減少し、令和5年度末では149ヘクタールとなりました。

[参 考]

1 上水道事業会計

(1) 貸借対照表(令和6年3月31日)

(単位:百万円)

資産		負債及び資本		
固定資産	774,361	負債	固定負債	151,748
流動資産	59,549		流動負債	37,258
			繰延収益	204,376
		資本金・剰余金		440,528
合計	833,910	合計		833,910

(2) 純利益の推移

(単位:百万円)

区 分	平成 29年度	30年度	令和 元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
純利益	14,204	9,872	8,095	8,076	8,519	3,894	5,828
対前年度増減額	3,034	△ 4,332	△ 1,777	△ 19	443	△ 4,625	1,934

(3) 資金残高の推移

(単位:百万円)

区 分	平成 29年度	30年度	令和 元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
資金残高	51,609	50,706	48,997	47,615	45,928	39,456	44,869

(4) 企業債残高の推移

(単位:百万円)

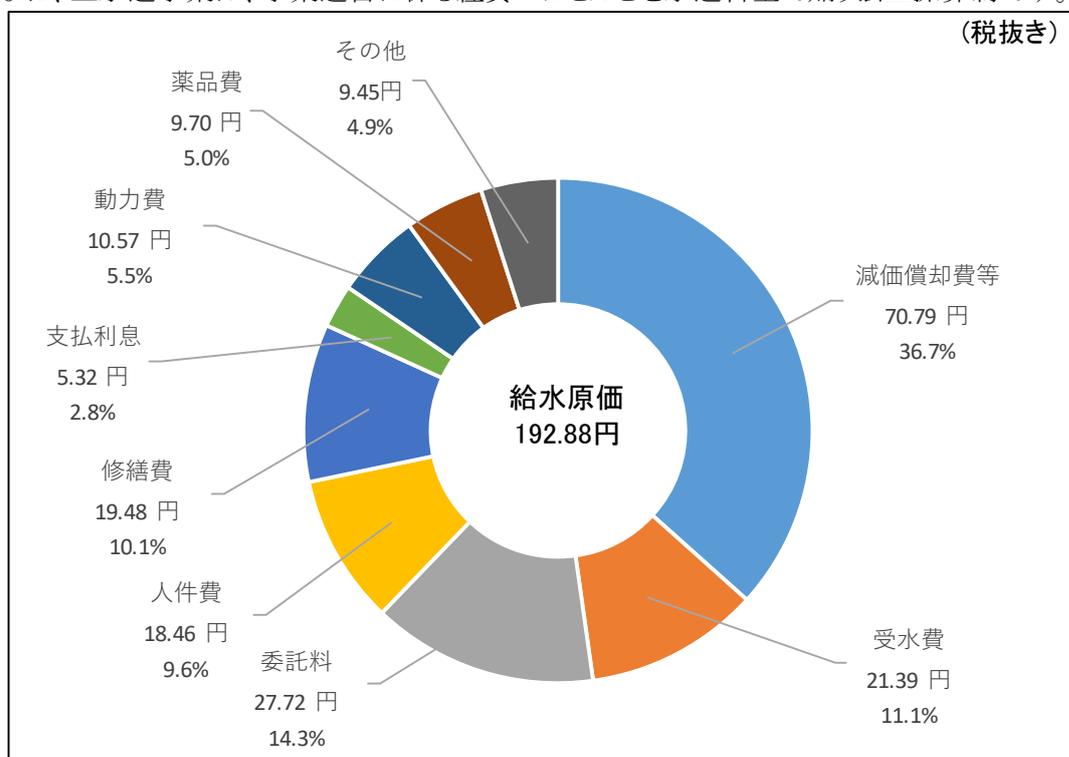
区 分	平成 29年度	30年度	令和 元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
借入額	8,000	8,000	10,000	12,000	13,500	13,000	31,000
企業債償還額	11,933	12,310	11,072	11,427	12,048	12,406	13,037
企業債残高	141,918	137,608	136,536	137,109	138,561	139,155	157,118

(5) 業務状況

項目	5年度 a	4年度 b	増減 c=a-b	増減率 c/b
給水戸数 (千戸)	1,577	1,557	20	1.3%
年間総給水量 (千 m^3)	314,200	314,255	△ 55	△ 0.0%
有収水量 (収入の対象となる水量) (千 m^3)	303,126	303,879	△ 753	△ 0.2%
有収率 (有収水量÷年間総給水量) (%)	96.5	96.7	△ 0.2	△ 0.2%
一日平均給水量 (千 m^3)	858	861	△ 3	△ 0.3%
一日最大給水量 (千 m^3)	1,001	932	69	7.4%
供給単価 (1 m^3 当たりの売上単価) (円)	197.33	195.78	1.55	0.8%
給水原価 (1 m^3 当たりの製造原価) (円)	192.88	196.56	△ 3.68	△ 1.9%
職員数 (人)	958	947	11	1.2%

(6) 給水原価の構成

給水原価は、水道水1 m^3 をつくるために要した費用で、令和5年度は192.88円(税抜き)です。なお、上水道事業は、事業運営に係る経費のほとんどを水道料金で賄う独立採算制です。



[参 考]

2 工業用水道事業会計

(1) 貸借対照表(令和6年3月31日)

(単位:百万円)

資産		負債及び資本		
固定資産	156,271	負債	固定負債	34,218
流動資産	40,154		流動負債	5,928
			繰延収益	35,024
			資本金・剰余金	121,255
合計	196,425	合計		196,425

(2) 純利益の推移

(単位:百万円)

区 分	平成 29年度	30年度	令和 元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
純利益	1,416	1,424	1,224	1,431	1,458	436	1,119

(3) 資金残高の推移

(単位:百万円)

区 分	平成 29年度	30年度	令和 元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
資金残高	22,912	26,306	29,181	32,644	34,420	35,868	38,375

(4) 企業債残高の推移

(単位:百万円)

区 分	平成 29年度	30年度	令和 元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
企業債借入額	446	559	357	53	25	69	123
企業債償還額	3,035	2,652	2,379	2,329	2,229	1,982	1,911
企業債残高	25,453	23,360	21,338	19,062	16,858	14,945	13,157

[参 考]

3 造成土地管理事業会計

(1) 貸借対照表(令和6年3月31日)

(単位:百万円)

資産		負債及び資本		
固定資産	495,118	負債	固定負債	1,922
完成資産	46,058		流動負債	3,580
未成資産	0		繰延収益	0
流動資産	107,856	資本金・剰余金		643,530
合計	649,032	合計		649,032

(2) 純利益の推移

(単位:百万円)

区 分	平成 29年度	30年度	令和 元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
純利益	△ 6,839	4,571	△ 978	3,350	2,776	4,349	8,222

(3) 資金残高の推移

(単位:百万円)

区 分	平成 29年度	30年度	令和 元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
資金残高	99,441	74,782	77,333	86,893	94,295	97,875	107,359

(4) 未処分土地の推移

(単位:ha)

区 分	平成 29年度	30年度	令和 元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
処分面積	104	38	2	8	2	4	19
年度末未処分土地	222	184	182	174	172	168	149